

かお・人インタビュー

2013年 9月13日(金)

水野宏治 福岡国道事務所 所長インタビュー



と県南の地方と、まったく性格が異なる地域を管轄させていただき、いろいろなフィールドがあり、非常にやりがいを感じています。事務所長としては初めての赴任ですが、いろいろな事業を進めるにあたって地域の方々、

はそんなに変わることはないのですが、ただ、考え方が少し日本とは違って進んでいる。日本の整備局に近い交通省の道路庁にいたのですが、道路を造る組織として高速道路や幹線道路を直轄で管理している。そこで「一番すごいなあ」と思ったのが、既存の道路をどううまく活用していくのかという観点で仕事を進めていること。たとえば、日本では渋滞すればバイパスをつくる、4車線化にするということになりますが、向こうでは事前に交通量などを把握し、混んでいる時間帯に既存の空間である路肩を走行車線化して渋滞がないようにしている。ドライブしていても楽しいですよ。イギリスなどヨーロッパでは10数年前からやっている。既存の道路車線を狭めて、路肩を広くし、車線規制などの工夫をすれば数年で出来てしまう。このような考え方は素晴らしいなあと思う。今後についてはさらに合理的にやろうということで、混雑時だけでなく、路肩を常時開放していくように整備を進めている。事業というのは速くやることが求められているので、日本でも既存の空間をうまく利用した、このような取り組みが必要じゃないかと思っています。

◎赴任されて5カ月ですが、福岡の印象について

実は私の妻が福岡出身なので、生まれてすぐ東京に来たのですが、親戚の集まりなどで何回か福岡に来たことがありまして、当時からいいところだと思っていました。ここに来てあまり遠くには行っていませんが、地元の祭り、博多どんたくや山笠などが盛んでとてもエネルギーの良い街だと思います。今年は残念なことに毎週末大雨が降ったので、夏休みも遠出していないので、これから大いに楽しみたい。

◎職務的にはどうですか

この事務所に来て「いいなあ」と思うことは、福岡市という都市

首長さんの方々をはじめかなり多くの方々にご理解とご協力、ご支援もいただき、非常にありがたい地域だと思っています。道路の用地交渉一つにしても、町の職員の方々も一緒になって地域のためということで、根気よく交渉していただいています。このような協力体制というのは、自分たちにとって仕事が増えるということでもあります。簡単なこと、さすか九州ならではの温かいところかなと思います。

◎これまでの赴任地の思い出は

直近でいえば、イギリスの交通省に1年ちょっといたのですが、それが印象的ですかね。仕事自体

◎事務所管内の 25 年度事業概要について

25年度当初予算は前年度の約1.2倍、24年度補正予算も60億円つけていただき、当初と補正をあわせると、これまでの約2倍の予算をいただいている。これも地域の方々がいろいろ応援していただいている結果であり、非常にありがたいと思っています、これで、なかなか進捗の遅かった事業も少しでも先に進むのではないかと考えています。

25年度予算の新規事業は、福岡市内の中洲にある国道202号の「春吉橋架替事業」。50年以上たった老朽化した橋があるのですが、福岡県的那珂川改修事業とうちの橋梁架替事業、さらに福岡市とも連携して、仮設橋を本橋として残し、その空間に公園を造ろうという事業で、これが新規の目玉です。今回、かなり大幅な予算をいただきましたので、うちのビッグプロジェクトともいえる有明海沿岸道路についても徳益～柳川西間の供用が1年前倒しで平成29年度に供用できます。このような予算をいただくと、地域にとって必要とされている道路整備のスピードアップが図れます。

その他事業としては、鳥栖久留米道路、博多バイパス、浮羽バイパス等がありますので、これらの進捗も図っていきます。浮羽バイパスについては一部区間の本年度供用、博多バイパスも29年度の供用を確実に行っていきたい。ただ、予算がその時だけで終わってしまうと、私どもの事業推進の想定しているところが崩れてしまうので、安定した予算の確保が必要

かと思っています。

◎来年度以降の予算確保について

公共投資がピーク時に比べ半減、地域のことを考えて、地域と直に接している組織としてはまだまだやるのが沢山あり、予算を獲得していくのが重要。さらに、強靱化という議論がありますが、東日本震災、九州北部災害とか、防災というものをどうしていくのか、まさに国家の安全保障の問題であり、こういった概念をどう我々の社会資本整備の中に取り入



れていくのか、今後は「渋滞をしているから道路を造る」それも重要なんですけど、そういう概念だけではなくて、地域の安全性を高めるためにどう社会資本を整備すべきなのかという概念もあわせて考えていかなければならない。その中で新しい分野にもチャレンジしていくことになると思う。国土強靱化計画というのが今後出てくると思いますが、道路を一つ造るにしても、考え方を変えて整備していかなければならない。そして、今道路事業を進めるにあたって、公益性を重視していますが、どうしても、ビーバイシ（B/C）、効率性というところで議論していくというのが念頭に置かれているので、それだけではなくて、さらに

安全保障という考え方に立ってどう国土を整備していくのかというのが重要で、今後そういった面が予算の中でも、現れてくると思うし、今の予算でそれが十分達成できるかといえば、そうじゃないのではないかと思う、いまある渋滞だとか、地域活性化のための事業も今の予算だけだと見通しもつかないし、新しいチャレンジもしていかなければならない状況の中で、そこは国土交通省としてしっかり要求していくべき話だと思います。

◎技術者不足などによる公共入札で不調・不落が増えていますが、

予算が増えたり、減ったりというのはある意味で有り得ること、災害が起きるというのも想定されることで、大きな災害が起きれば技術者の方が足りなくなる、あるいは請け負っていただける業者の方が少なくなることは想定されること。それを想定した制度にいかにかうまく変えていくのが重要。私たちの事務所の発注の仕方にしても、これまでと同じような発注ではまったくダメで、求められる要件をもう少し幅広にしたり、工夫をしながらやっている。これからは財政状況が厳しく、災害も頻発している状況を踏まえて、われわれとしてはやはり安定的な予算を確保し、業者の方が安定的に仕事をし、技術者も確保できる土台を作っていくのか、さらにこれからは維持修繕というものがどんどん増えていく中で、新設と比べて、厳しい現場での仕事をしなければならぬし、さらに技術者も特殊な能力を求められ、技術者も多くなければならないという世界が始まっており、時代の変わり目に

合わせた発注制度が必要になってくる。

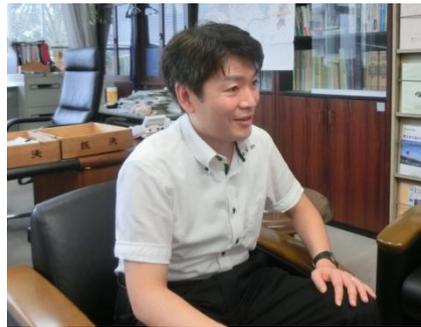
◎「情報化施工」の徹底がなされていないとの指摘がありますが、

情報化施工については、今年4月から「トータルステーションによる出来高管理技術(土工)」が使用原則化となったので、これから普及していくものだと思います。私は、平成10年に本省総合政策局の施工企画課に在籍し、情報化施工技術の今後のあり方についてさまざまな角度から検討していた。また、建設機械の排ガスの低排出型・低騒音型の機械も担当していたのですが、あれも直轄事業でこれを使いなさいという「使用原則」によって、どんどん広がった。情報化施工もこれから「使用原則化」というカジが切られた訳ですので、今後、施工工種も増えて、一気に普及していくと思います。これからは本当のスタートであり、情報化施工の元担当係長としても非常にうれしく思っています。

◎総合評価落札方式の技術提案について

九地整では施工能力評価型と技術提案を評価する2つの形に分けている。基本的に分任官工事は多くの技術提案を求めない施工能力評価型、本官工事については技術提案をじっくり審査する技術提案型の2極化で発注していこうというのは合理的な考え方。発注自体が技術力の向上に繋がるのではなくて、発注した前後に技術力を高めていくのが重要なので、そうした発注手続きを両者にとってメリットのあるものに変えていく、九州の総合評価の2極化はいいこと。さらに、もう一歩進めていこうと

試行しているのが、一括審査型。コピーして出してくるようなものを一括審査してやっていこうというもので、どんどん進めていくべき。真に品質を確保していくうえで、前段階の計画、設計、現場をどう監督するのかというのが重要。発注の手間を両者で減らし、技術力に重点を置くのが双方にとってもメリットがあるので、事務所でも積極的にやっていきたい。



◎業界への要望・メッセージ

先ほども触れましたが、発注者、受注者という関係だけでは、その先にあるわれわれの事業、防災体制というのは進まないと思う。そういったところも、新たな取り組みとして積極的に取り組んでいきたいので、ぜひご協力をお願いしたい。そうした体制を確保するためには予算の安定的な確保が重要であり、今後、事業のあり方も「造る」から「管理する」という世界に移っていくので、それに十分見合った制度をつくっていく、われわれの現場からも声を上げていくのも必要となる。ぜひ、事務所の

私の部屋にも来ていただいて、そういったことを教えていただき、意見交換の中でいろいろお話しができればと思っています。

◎事務所としての目標

中長期的な戦略目標として「全国をリードする事務所」になってもらいたいとお願いしている。これは新しいことをいっぱいやるということではなく、そういう気持ちをもって、日々の業務に取り組んでもらいたいということ。今までおざなりになっていたことはないのか、あるいは全国ベースでみて、それは古くて、もっと新しいことができるのではないのか、いろいろな取り組みで改善できることはないのか、そうすることが事務所の効率化につながり、地域にとってもいいことにもなるので、私としてもそれが実現できるように頑張っていきたい。

◎趣味や特技について

学生の頃からずっとハンドボールをやっていて、体を動かすことが好きです。大学の時、社会人になってからも続けていましたし、学生時代は国体にも何度か北海道代表として出させていただいた。休日は読書したり、スポーツジムにいったり体を鍛えたりしています。また、旅行も好きなので、週末の大雨の悪循環が落ち着いてきたら、九州をいろいろ周ってみたい。

水野宏治福岡国道事務所長 略歴

- ・最終学歴 北海道大学大学院 工学研究科 土木工学専攻修了
- ・略歴 平成 8年4月 旧建設省に入省
- 平成17年4月 関東地方整備局企画部企画課長
- 平成18年4月 道路局有料道路課課長補佐
- 平成21年8月 道路局企画課課長補佐
- 平成23年4月 道路局企画課企画専門官
- 平成23年8月 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構 企画部企画課課長代理(英国道路庁派遣)
- 平成25年4月 九州地方整備局 福岡国道事務所長
- ・出身 東京都(S47年2月4日生)